

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前10時45分）

---

◇ 長 嶋 精 一 君

○議長（稲葉昭宏君） 一般質問を続けます。

通告順位2番、長嶋精一君。

（3番 長嶋精一君 登壇）

○3番（長嶋精一君） 昨年の6月の定例会で町会議員になって初めての一般質問をやったわけですが、その時の発言内容は鮮明に覚えています。簡単に言いますと、今の松崎町は船の航海に例える」とすると、目的地を持たず、海図もない船に乗って、ただ航海をしている状況であると、この松崎丸は遠からず座礁し、乗組員はほんの一握りの運のいい人間だけが生き残るであろうと言いました。今もその感は更に強まっています。

それから1年経って感じたことがもう一つ、我われ議員は1年前の選挙の時に公約をしたことに対して、いったいどうなっているんだろうかということをお問自答する必要があると思います。

それから、表面的には行政を厳しくチェック監視しているように見えても、実は机の下でぎっちり」と握手を交わしているようなそういう古い政治は町のためにも町民のためにも決してならないわけであります。議員一人ひとりが自覚し、行動する必要があります。

また、町民の皆さんもしっかりとそこら辺を行政、議員の行動を観察していただきたいと思ひます。

それでは一般質問に移ります。私からは大きく3つ質問、提案をいたします。

大きな1. 地方創生についてでございます。その1、今年が地方創生元年でございます。大切な年です。

そこで、町長が副町長として指出氏を選んだ理由な何か。これについては、我われは説明を受けておりません。ぜひ説明いただきたいと思ひます。

2、当町は地場産業の創生・育成として桜葉振興を掲げています。これは非常にいいことだと思ひます。そこで桜葉産業の現状と今後5年間の目標、そしてそれをどうやって達成するのかという具体策を述べていただきたいと思ひます。

次に大きな2. 災害対策でございます。熊本の地震は昭和56年5月以前の旧建築基準法で作られた家、これらが倒壊し、全部じゃないんですけども倒壊し、それによって亡くなられた方が多か

ったということを踏まえまして、1、平成13年にスタートした県・町のプロジェクトである「T O H K A I - 0」の当町内の実績を教えてください。

2、当町内には昭和56年5月以前、改正建築基準法施行以前の建物がいくつあるのか聞きたいと思います。

それから大きな3、福祉についての提案でございます。その内の1、買物弱者支援策として、各地区ごとに週1回時間を決めて小型バス運行ができないか。

福祉タクシー、寿乗車券を買物弱者支援メニューとして包括提供できないかということでございます。提案でございます。

次に、2、順天堂行直通バスの実施が遅れています。ネックは何なのか、いつ実施できるのか答えていただきたいと思います。

私からの質問、提案は以上でございます。

(町長 齋藤文彦君 登壇)

○町長(齋藤文彦君) 長嶋精一議員の一般質問にお答えします。

1、地方創生について。①「今年度は地方創生元年にあたる大切な年。そこで、町長が副町長として指出氏を選んだ理由は何か」についてであります。

副町長には、町長である私が行なう政策や企画を補佐し、またその補助機関たる職員が担任する事務を監督してもらわなくてはなりません。そのためには信頼感があり、幅広い知識や経験を持っていることが必要であると思っています。

指出副町長は、第一に人として尊敬できること。加えて、教職員生活で培った豊富な人材育成経験と幅広い知識があるばかりでなく、教育長としての行政経験もあることから、政策等の推進のほか、職員の育成にも大きな力を発揮してもらえると考え選任したところです。

すでに役場外からの視点に立った意見やアドバイスをいただくなど、業務推進の大きな歯車となっており、これからも大いに活躍してくれるものと確信しています。

②「当町は地場産品の創生・育成として桜葉振興を掲げている。そこで、桜葉産業の現状と今後5年間の目標、そしてそれを達成する為の方策は何か」についてでございます。

かつて500戸以上が桜葉の生産をしていたと思われませんが、現在の生産者は約100戸と大きく減少しているとともに高齢化が進んでおり、全国に流通している桜葉も中国産が増加している状況で、このままでは松崎の桜葉の将来は非常に厳しいと感じています。

そこで、国の過疎地域等自立活性化推進事業の補助金を活用し、桜葉産業の復活について本格的な取り組みを始めたところでございます。

具体的な目標等については、今後、生産者・加工業者・農業精通者・農協等との協議会を立ち上げて調整しますが、当町にとって喫緊の重要施策と位置付け、今回の補正予算に計上いたしましたのでご理解、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2. 災害対策について。①「平成13年にスタートした県・町のプロジェクトである「TOUKA I-0」の当町内の実績（診断件数、補強件数）を知りたい」②「当町内には昭和56年5月以前（改定建築基準法施行以前）の建物はいくつあるのか」についてです。

平成27年度の調査によると昭和56年5月以前に建設された対象家屋は2247棟で、現在まで344棟が「わが家の専門家診断」を受けています。

診断を受けた割合は県内でも高い方ですが、実際に木造住宅耐震補強工事の助成を受けた家屋はわずか12棟で、耐震性があるため補強をしないのではなく、補助以外の自己負担額が大きくなることが原因で、補強工事がされていないのが現状と考えられます。

4月に発生した熊本県での大地震は、家屋の耐震化がいかに大切かという教訓にもなりましたので、事業主体の県と調整しながら制度の広報や、未改築家屋への対応を検討してまいります。

3. 福祉について。①「買物弱者支援策として、各地区ごとに週一回、時間を決めて小型バス運行できないか」についてでございます。

買物弱者をはじめとする交通弱者対策として、町では福祉タクシー券や乗り合いバスの寿乗車券の交付を行っています。寿乗車券については、1冊1300円相当の回数券を500円で購入することができ、交付冊数の制限は設けておりませんので、現行ではこれをご活用いただく形となっています。

バス停まで遠隔地となる住民の足をどう確保するのかが今後の課題となりますが、一部民間業者でも高齢者の対応について取り組みを検討していることから、今後も情報交換する中で支援策についても考慮していく所存です。

最近では、一部コンビニ店でも商品の宅配サービスが行われるなど事業者側の買物支援の取り組みも始まっています。また、社会福祉協議会で立ち上げられた地域支え合い型福祉サービス事業においても有償にはなりますが、買物などの依頼を受け付けておりますのでそれらを活用することも買物弱者支援の一助と考えております。

②「順天堂行き直通バスの実施が遅れている。いつ実施できるのか、ネックは何か」についてです。

伊豆の国市の総合病院への直通バスにつきましては、地域交通会議において地域課題の一つに挙げられ協議が重ねられてきました。

地域交通会議では松崎町・西伊豆町・伊豆市土肥地区などの西伊豆地域及び沼津市戸田地区から

の通院について、既存の路線バスの所要時間の短縮など利便性の向上を図るとして本年3月にまとめられた地域公共交通網形成計画に盛り込まれました。

今後は実現化に向け、実施主体として関係自治体や交通機関、県を交えた協議が予定されています。当町におきましても同会議において引き続き直通バス運行に向けた取り組みを継続してまいります。

以上でございます。

○3番（長嶋精一君） 一問一答でお願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 許可します。

○3番（長嶋精一君） 今年は地方創生元年、言うまでもなくスタートダッシュをかけなければいけない大切な年であるわけです。いま町長から説明がございましたが、副町長の仕事ぶりが大いに注目されるわけがございますけれども、前の副町長は年齢が50代、新副町長は70代半ばということで、70代半ばになると、いくら優秀な人間でも・・・、個人差はあるでしょうが、情熱、気力、体力、粘り強さ、目標に対する達成意欲、どうしても減退するんじゃないだろうかとは私は心配をしています。

町長、いかがですか、その点は。町長に、選んだ方に・・・、副当町はあとで・・・。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。長嶋君、一般質問はあなたも承知していると思うけれども、当局を質するのが一般質問であるから、あまり個人的な分野に入っただけの質問はご遠慮願いたいと思います。そこらはよく承知をして一般質問をお願いいたします。

○町長（齋藤文彦君） 年齢、年齢と言いますがけれども、本当に松崎町は50、60が働き盛り、70、80になって迎えがきたら100になるまで追い返せ、このくらいの気持ちでやっていると松崎町はもたないと思っています。

指出副町長は年齢は年齢ですけれども、考え方は非常に若いし、私が壇上で答えたとおり、私の右腕として本当に地方創生をはじめ、いろいろ町のことにサイドから応援してくれて非常にいい副町長だなと思っています。これから副町長の活躍を見守ってもらいたいと思うところがございます。

○3番（長嶋精一君） 副町長に対して町長は非常に期待しているわけですので、ぜひ総合戦略達成のためにがんばっていただきたいと思います。

さて、指出副町長について私は当初反対票を投じたわけですが、その反対理由について、私が副町長になりたかったんだというようなそういう話ごく最近議員間であります。私はあきれはてたわけでありまして。しかも町長のところに二～三度行ったという当の本人は全く知らないのに、そんな話が出ている。開いた口がふさがらない。

今年になって、確かに非公式で私たち議員、全員じゃないですけども、今年になってですよ。副町長はどうなるんだろうか、佐藤副町長にあと1期くらいやってもらいたいとか、あるいはもし責任者がいなかったら、空席でもいいんじゃないのかとか、あるいは総務課長が順当だろうとか、いろいろ意見がございました。

しかし、人事案件については、我われ議員はアンタッチャブルなんですね。それはわかっています。

今年のはじめに、しかし、そういう非公式のあいだでは話しがありました。そして、そんな非公式な話をしている最中に、私がですよ。町長のところに出向いて、私をお願いしますなんてことを言ったということ自体が私の人生でそういうことが一番嫌いなんです。軽蔑するんです。私の名誉に関わることでございます。

町長は非常に正直な人です。私は知っています。町長、伺いますが、私が副町長にさせてもらいたいと行きましたか。町長、答えてください。

○議長（稲葉昭宏君） 暫時休憩します。

（午前11時02分）

---

○議長（稲葉昭宏君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午前11時05分）

---

○3番（長嶋精一君） ちょっと簡単に言います。町長に対して議員である私が何を言ったかとか、あるいはほかの議員がこの人がいいじゃないか、あの人がいいじゃないかと言うこと自体が地方自治制度の根幹である二元代表制を否定するものなんですね。私が言ったとかじゃなくて、ほかの議員が言ったとしても、これは癒着に直結するわけですよ。このような行為は弾劾されなければいけないと私は思います。私の名誉棄損にあたります。この件はそこで終了します。

そこで副町長、いいですか。町長が期待していますから、意気込みを語っていただきたいと思います。

○副町長（指出 巖君） 意気込みになるかどうかわかりませんが、前の議会の閉会の時にここで挨拶をさせてもらいました。そのことを繰り返すようなことになるとは思いますけれども、私の考えの中では、松崎町を良くするというので、そういう土俵の上に立っているということでございます。その土俵の上には、後ろに控えている役場の各課の代表の課長・局長も含めまして、もちろん町長も含めまして、議員さんたちも含めて同じ土俵の上に立っていると私は考えています。

そのことによって、いい松崎町、先ほど町長が所信表明で述べていました。そういうまちづくりをしていこうという覚悟でいます。以上です。

○3番（長嶋精一君） 2つ目の、地方創生の2つ目、桜葉についてでございます。町長は先ほど説明しましたけれども、比較の問題が大事だと思うんですけども、桜葉の業界のピーク、これは平成4年、5年だったと思います。その時の売上が約6億円、桜葉の畑の面積が45ヘクタール、生産者は、町長も言いましたけれども、だいたい480戸、そして現在は売上がピークと比べると相当減っていて、約2億円ちょっとだと思います。そして桜葉の畑の面積は20ヘクタール、生産者は100戸となっているわけですね。大ざっぱな数字であります。

そこで、町長にお聞きしますけれども、この桜葉業界で一番困っているのは誰で、その困っている人たちはどうして欲しいのか、ここがネックになっている、こうして欲しい、ここがネックになっている、こうして欲しいというのがあると思うんです。役場は、地方創生のために役場は桜葉を振興するんだというからには、そこら辺のネックのところをとらえていかないと、それは掛け声だけに終わってしまうわけですよ。その点、町長、ひとついかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 壇上で申しましたけれども、今後、生産者、加工業者、農業精通者、農協等と協議会を立ち上げて調整していくわけですけども、一般財団法人伊豆松崎町桜葉振興会の方から私たちはこういうことをやりたいというのがきています。現在の生産木を若木へと切り替え、低農薬の取り組み、フェロモン剤による害虫被害を軽減します。また、新たな無農薬、有機肥料による桜葉の栽培を試験農地で実施し、生産性向上のため苗木の生産を拡大し、栽培面積の倍増を目指していきます。これが生産部門です。

販売部門は、インターネットホームページを開設し、日本語・英語・ラテン語バージョンを作成し、ジェトロを世界の窓口として販路の拡大を図っていきます。

安全性及び品質の向上ということで特定産地証を受け、他産地との差別化を図り、安心・安全の徹底、残留農薬検査、放射能検査、最新検査を実施し、食の安全を図っていきます。こういったことです。

また開発部門では、乾燥桜葉粉末1mm～2mmを試作し、お茶葉への混合を図ります。イタリアン料理、ジェノベーゼの施策を図ります。化粧品への使用ということで、桜葉振興会の皆さんがやっているわけですけども、私がいま桜葉の業界をみまして、一番松崎町の桜葉で大切なのは、いま日本全国に流通している桜葉の70パーセントが中国製と言われていています。残りの30パーセントが松崎生産ということになるわけですけども、これは西伊豆町と南伊豆町もあって、ほとんど松崎の生産になるわけですけども、松崎町の桜葉というのは、クマリンが非常に多くて無毛だと。日本

全国松崎町の桜葉というのは皆さんに認められているわけですが、この桜葉を・・・、松崎の桜葉はほかのところと差別していかないといかんと言っていますので。今度、非常にありがたいことに、先ほど壇上で申しましたけれども、国の過疎地域等自立活性化推進事業の補助金を1000万円いただきました。これはいま本当に桜葉が盛り上がっていると、桜が盛り上がっていると私は感じているわけでございます。

今度、リオデジャネイロのオリンピックのユニホームが桜葉ですし、イギリスで行われましたラグビーの世界大会のネームについている桜の花が3枚、エンブレムがその下に葉が2枚添えてあるわけですが、これを見て、いま松崎の桜葉は追い風に乗っているなということですので、ぜひ協力して、この生産組合を運営しながらやっていきたいなと思っているところでございます。

○3番(長嶋精一君) いま桜葉振興会の話ということを町長はかいつまんで話をしたんですけども、桜葉振興会は佐藤議員もがんばっています。そして、我われ議員も藤井議員それから伴議員、私、これも桜葉振興会に加入するわけじゃないんですけども、いろんな面で協力をしていきたいと、行政に協力していきたいと思っています。だから私が言っているのは、いま言っているのは文句を言っているわけじゃないですからね。

それで、ネックになっているのは、ちょっと町長から話がありませんでしたけれども、漬け元の問題が一番大きいと思うんですよ。漬け元が悪いというんじゃない。漬け元の問題。漬け元から聞いた話ですけども、こうして欲しいと言う話ね。桜葉の畑を増やして欲しいと、それと、生産者を増やして欲しい、まるけ作業が大変だと、だから、この3つを何とか解決するような形でやる方法はないものかと考えているわけです。

桜葉畑を増やしたいということは、昔45ヘクタールやっていた。今は20ヘクタールになっている。松崎町の耕作放棄地が63ヘクタールあるわけです。今の20ヘクタールを更に昔やっていた桜葉畑を交渉して、何とか復活してもらおうという行動が必要だと思うんですね。これは漬け元に聞いたら、ぜひそれはやってもいいと・・・、というのは、車が通れる道があるというんですね。移動にいいというわけです。だから、そういう交渉をするということ、それと生産者を増やすということは誰にやってもらうか、担い手ですよ。例えば土木建築業者、例えばシルバー、それと移住者ですね。石部の棚田のオーナー制度を見習ってちょっとやってみる。松崎高校生の夏を利用して季節限定でやるとか、地域おこし協力隊あるいはJA、そのほかたくさんある。担い手として候補があると思うんです。それについて、やはりいろんな形でディスカッションをして交渉をしていくということ、これが必要だと思います。

移住者を増やすということ、そうなる・・・、あるいは耕作放棄地を減らすということ、それに

よって桜葉の生産を増やす。一石二鳥じゃなくて桜葉売上増、耕作放棄地減、移住者増、空き家対策にもなるということを考えて、一石四鳥くらいになってくるわけですよ。

ですから、そういうことを考えて、協力し合ってやっていくのがいいのかなと私は考えるわけです。

平成4～5年のピークの時には、1年間生産者・・・、生産者です、これは。漬け元じゃなくて、生産者が1年間一生懸命やるとクラウンが買えたと言われた時期があったんですね。

したがって、これも現代に置き換えて、精査をして、町の方で、役場の方でシミュレーションを試みる。1反やるといくら、2反をやると1人間が耕作して2反だそうです。それをやるといったいいくらになるのかということシミュレーションして、それを都会の方々にアピールする。こちらに来れば生活ができますよということをやるといことは非常に私は有意義ではないかなと思います。

そして、5年後の目標については非常に難しいんですが、私は、例えば今、2億円・・・、目標を5年後ですから5億円にする。桜葉の畑は45ヘクタールにする。町長が話されたように中国のものではなくて、全てを松崎産あるいは西伊豆町、南伊豆町にすると、そういうことを目指したらどうかと私は思うんですね。

そしてそれを、中国との差別化を図るためにはやはり減農薬、有機栽培をやっていかないとまずいと思います。それはいきなりやるとうまくいきませんから、徐々に徐々に増やして行って5年後には有機栽培になったという、そういう方向付けが必要ではないかと思います。

町長、どう思いますか。

○町長（齋藤文彦君） あとで担当課長の方から詳しく答えてもらいますけれども、先ほど壇上で申したとおり、今後、生産者、加工業者、農業精通者、農協等と協議会を立ち上げて、どのようにしていくかということ協議するわけですが、ただ、皆さんは新聞等でいろいろご覧になったと思いますけれども、掛川市とは飛び地の関係で掛川市長のところへ行ったら、なんか面白い・・・、向こうには「茶のみやきんじろう」というゆるキャラがいるわけですが、「松崎町のまっちゃんとなんかコラボできませんかね」というような話をしたら、すぐに乗ってくれて桜葉のお茶ができました。

また、掛川の方から資生堂、化粧品の方がみえられまして、桜葉を使った化粧品を作りたいというようなことで、松崎町で生産現場を見て、岩科の現場を見て、「こういう素晴らしい所だったら、素晴らしい製品ができるね」というような話をしていますので、そうしてやっぱり桜葉を生産する、これだけやっぱり稼げるよというようなやつをやっぱり皆さんに目に見えるようにして、そして若



い人たちに入ってもらわないとなかなか増えないと思いますので、松崎町はそのようなことでやっていきたいなと思っています。

補正予算でたくさん付けてありますので、これからいろいろ話し合ってもらうことになると思いますけれども、ちょっと課長の方から詳しい話はしてもらいます。

○産業建設課長（高木和彦君） 長嶋議員のご提案は、ぼくも参考にさせていただきます。私どももいろいろ研究をしているんですけれども、一番の問題は桜葉をまるける方がいないということです。あと10年もしたら、このまるけ手は全くなくなります。現在もほとんどが70歳以上の方、先ほどの提案の中で、移住者とかということがありましたけれども、今の形でやっていると1時間に200円とか、多くても300円、その程度しかまるける方の収入にならないんです。

そこで、ぼくらが一番考えているのは、まず、まるけを楽にできないか。1時間に最高で14～15くらいだそうです。それを、例えば型枠を作るとか、機械を導入するとか、そういう形で1時間に20個とか、それ以上にできれば産業になると思います。

そこをきちんとしめないと、桜葉畑をどんかい増やしてもまるけ手がないから、取ることもできません。また漬け元もそうです。

それと農薬の関係、これについても、桜葉の農薬については非常にデリケートな管理をしていますけれども、やはりそこらのイメージがありますので、例えば早い時期に収穫する、虫がいないうちに収穫するような形を県なんかの品種改良なんかを考えていくとか、長いスパンで考える必要があるんじゃないかと思います。

町長の回答にもありましたけれども、本当にこれは松崎町の重要な案件で、私ども産業建設課でこれについて一生懸命取り組んでいきますし、生産者といろいろ話をしたら、例えば桜葉のまるけコンテストをやってはどうかとか、一つのアイディアですけれども、松崎町はつわぶきの花が町の花になっていますけれども、重要産業があるから、大島桜を町の花にしたらどうかなんていう話もいま桜葉業界では出ています。

今後いろいろ努力をしていきますので、またいろいろご指導をいただきたいと思います。

○3番（長嶋精一君） いま課長から説明があって、まるけ作業が大変だということで、それはそうだと思うんです。しかし、まるけを解決したら、じゃあ、畑が増えるとか、生産者が増えるという問題じゃないから、やっぱり総合的にやっていく必要があるわけですよ。それは私も考えているんですけども、当然課長とも相談してロボット化とかね、まるけの。あるいは自動化、当然考えています。それも機械専門メーカー等がたくさんあるでしょうから、更に交渉するというのも必要だと思います。

そこでね、私は、このせっかくの桜葉に入り込むんだったら、やはり補助金も入ると、そこで安心してはまた元の木阿弥になるんですよ。だから、せっかくお金が、補助金が入ってきているならば、ここを起点として持続的につながるような体制づくりをまずやらないと線香花火で終わりますよ。

したがって、いろんな、農協とか、いろんな桜葉振興会、それから議員も協力します。体制づくりを一緒に考えていきましょう。

それと、役場がどこまで介入するかということも大きなポイントだと思います。町長、よろしくお願いします。これで私の2番目の質問は終わります。

○議長（稲葉昭宏君） いいですか。答弁はいらないですか。

○3番（長嶋精一君） 結構です。町長、ありますか。

○町長（齋藤文彦君） 桜葉は本当に松崎の土台となる産業だと思っていますので、本当に、課長の方からありましたけれど、本当に最重点課題だと私は思っていますので、力を入れてやっていきたいと思っています。

○3番（長嶋精一君） 大きな2. 災害対策であります。「TOUKAI-0」が始まってから診断件数、補強件数というのはいったい何件あるんですか。これは産業建設課の方に聞いたことがあると思うんだけど・・・。

それと、56年5月以前の建物は2247棟と言いましたね。その診断件数、補強件数を言ってもらいたいと思います。

○産業建設課長（高木和彦君） 先ほどの答弁の中でも334棟が専門家の診断を受けていること、それと、その中で助成を受けて耐震化したのは、わずか12棟ということで、ご報告を町長の方から答弁はさせていただいています。

○3番（長嶋精一君） 「TOUKAI-0」というプロジェクトは、県と町のプロジェクトというのは、平成7年に阪神淡路大震災が起きて、その後平成13年に東海地区ということで静岡県が始めたんですよ。

それで、この件数を聞いていると、あまりにも少ないんじゃないのかと思うんですよ。それで、いったいどのように進めているのか、そして専門家の無料診断とあるけれども、町内にその診断をする人が何人いるのか。一級建築士なのかどうか。そこら辺を教えてください。

○産業建設課長（高木和彦君） ちょっと勉強不足で申し訳ないんですけども、町内の中の一級建築士の数はちょっと把握していませんので、また何かの時にご報告をさせていただきます。

ただ、これは皆さん見慣れていると思うんですけども、この事業が出てから毎年この耐震化事

業については、広報で毎年必ずこういう制度があるということを広報しているところです。

また、松崎町につきましても、耐震診断は無料、これは県全部そうです。ただし、補強計画につきましても計画を作ることによってそれについても補助が出る。特に大きいのは、耐震工事をしますと県の基準というのは30万円まで補助、高齢者世帯は50万円ということになってはいますが、松崎町独自の制度として、この倍60万円まで、高齢者世帯には80万円ということで力は入れているわけですが、なかなか自己資金が足りないとか住宅の保険をかけているとか、いいよとか、ちょっと防災意識がないということもあるかもしれませんけれども、私どもとしては、そのような形で努力はしていますのでご理解ください。

○議長（稲葉昭宏君） 町長、いいですか。

○町長（齋藤文彦君） 課長が言いましたとおり、広報はいろいろやっているわけですが、なかなかやってくれる人が少ないということで、いろいろ保険に加入しているからいいやというような人もいると聞いているわけですが、耐震診断は無料でやっています。また補強計画は費用の3分の2、上限96万円、高齢者世帯は144万円。

また、課長が言いましたけれども、耐震工事は、県は30万円、高齢者世帯は50万円、松崎町は60万円、高齢者世帯は80万円と非常に県よりも高くしてありますので、ぜひ、やっぱり熊本・大分のことを見ますと、やった方がいいなと思いますので、ますます広報をやって、皆さんが耐震診断をして、耐震工事をするまでもっていきなさいと思っています。

○3番（長嶋精一君） 町長、この松崎町の人口・・・、総合戦略、この冒頭に4本の矢と銘打ってあるんですね。そこに、3番目に地域防災力の強化に向けて官民協働の防災まちづくりをやっていくと・・・、それで、こういうふうに書いてあるんですね。これをぜひ実行してもらいたいんです。スローガンで終わっては絶対いけないわけですね。

それで、56年5月以前の建物が2247、総体からだいたい40パーセントくらいが要するに古いというか、旧建築基準法の建物ですね。これについては、どのような交渉をしているのか、あるいは一人住まいの高齢者、災害弱者と言われる人たちがいったいま松崎町には何棟に住んでいるのか、それを教えてもらえますか。

○産業建設課長（高木和彦君） 十分な回答ではないかもしれませんが、その56年5月以前のやつは構造的に筋交いがないような建物になっています。それが2247ということですので、その建物のほとんどが耐震をしていないというのが実態かとは思っています。

私どものこれは個人個人の持ち物ですので、町としては、「危険ですよ」「補強してくださいよ」、またお金がない場合は、例えば大規模な補修をしなくても瓦をトタンにするとか、スレートにする

とか、もっと安くやろうと思えば、押し入れの中に板を1枚足すだけでも補強というのはでてきますので、なるべくそういう相談があった時には、費用をかけない方法なんかも相談に乗ってあげたいと考えています。

- 3番（長嶋精一君） ぜひそういうきめ細かい交渉はやるべきだと思います。個人の所有だとか個人情報の問題だとか、限界があるとか何とか言わないで、やはり交渉して、「こうした方がいいですよ」ということは必要だと思います。

それと、一人住まいの高齢者の件数はあとでいいですから、また教えてもらいたいんだけど、この方々については、やはりこれはしっかりとした方向付けをするべきだと思います。私はお金がないからとか、年齢だからいいとかと言うかもしれないけれども、やっぱり交渉をして、しっかりと交渉を記録しておくということは大切じゃないかなと私は思います。ぜひお願いいたします。

それから、災害についての提案ですけれども、私は、この松崎町の役場は防災の専門的な人がいないということ、これがネックだと思うんですよ。だから防災スペシャリストを作ってもらいたい。そういう人を作ってもらいたい。例えば産業建設課に20パーセント席を置いて、防災専門としてほとんど80パーセントをやるという制度ですね。そうでないと、係、異動したりすると、また元に戻っちゃうんですよ。ぼくは、防災については非常に大切だと思います。じゃあ、どういう人間がいいのかといいますと、年がら年中、四六時中防災についてどっぷり考えている人、大げさに言うと、司馬遼太郎さんの書いた坂の上の雲の秋山真之のような人物ですよ。どうしたらロシアのバルチック艦隊を打ち破れるかと年がら年中考えている。大げさに言うとそうですけれども、そういう人物は別に建築学部を出たりという必要はありません。その性格を見抜いてぜひ設置してもらいたいと思います。いかがですか。

- 総務課長（山本秀樹君） そういう専門性をもった職員の養成ということであれば、静岡県でいく防災士という資格がありまして、そういうのを持っている職員もいます。ただ、職員の中ではそれぞれやっぱり異動というものがあまして、そこに職員となって20年も30年も同じ部署ということも、それはまたそれでその職員にとっては不幸なことになるということもありますので、それぞれ持ち場に就いた職員がそれぞれスキルアップをして対応できるようなシステムを取っていく方がいいのかなと。そうすれば、最悪その職員がいない場合でもそれを補うということもありますので、全体のレベルアップで対応していきたいなと考えています。

- 町長（齋藤文彦君） 長嶋議員の言うことはよくわかるわけですがけれども、一時長嶋議員は議員になった時に、役場の職員は多すぎるとか何とかという話を聞いたわけですがけれども、いま松崎に職員は88人で本当にみんな一生懸命やっているわけですがけれども、なかなか防災とか何とかに専門家

を作れといっても、みんななかなかいろいろ仕事をやっていますので、非常に難しいところがあるわけですが。やっぱり防災が4本の柱の一つですので、そのようなことがうまくできるように内部で話し合っていけばいいなと思うわけですが、なかなか非常に小さい町では厳しいところがあるなと思います。

1市5町でいろいろうまくやっているところをいろいろ見ているわけですが、なかなか厳しいところがありますので、いろいろ研究課題としてやっていきたいなと思います。

○3番（長嶋精一君） 町長がいま言われた、私が人数が多すぎるという問題とは全く関係ない話ですから。それと、総務課長がいまトップでやっているんでしょうけれども、総務課長が無能だからと言っているわけじゃないですよ。やはり専門的な部署、スペシャリストをつくることはずっとやっているということじゃなくて、例えば5年なら5年、10年なら10年で引き継ぎをちゃんとやっていくということです。

それと、最近ネットヨタ松崎店さんが避難用のテントを16個町に寄贈したという新聞記事が載りました。これは非常にいいことですね。例えば災害で長くなった場合は、体育館にずっと寝泊りするというのは非常に大変なんですね。だから避難用のテントを自分たちで用意する、簡易トイレを用意するということをぜひ町の方で進めてもらいたい。こういう商品がいい商品ですよ、値段は安いですよということを言うということですね。あくまでもそれを町がそれを補助するということを私は言っているわけじゃない。いろいろと全員に徹底していただきたいと思います。

次に、3.福祉についての提案でございます。買物弱者支援策として、週1回程度小型バスというものは、これは私の提案で、例であります。移動販売車とかイオングループが来ているとか、生協が来ているとか、配達に来ているとかありますけれども、やっぱり高齢者の・・・、自分の足で歩いて、商品を見て、そういうことが健康増進あるいは生きている実感になるんじゃないのかと私は思うんですよ。それは私自身が年をとったらそういうことをしてもらいたいなという想像で言っているわけです。

過疎地域の自立促進特別事業として福祉タクシー利用助成、寿乗車券利用助成がありますけれども、平成26年は予算に対して55万円余っているんですね。使われていないんです。じゃあ、平成27年はどうなのか、そこをまず聞きたいと思います。

そして、使われなかったということは、ニーズに合っていないんじゃないかということなんですね。だから、これらを合せて包括して、寿乗車券、福祉タクシー、それと小型バスを運行するというのを合せて・・・、柔道じゃないですけども、合せ一本というものもあるわけですよ。そういうことを・・・、ニーズに合わせたことを考えたらどうですか。

そして宮崎県では、住民からアンケートを取っているという町があります。どこに行きたいのか、買物支援なのか病院か、待合場所はどこにあるかということアンケートを取って実行していると・・・。地域の実情に合ったやり方をしないと、また長続きしないということになっちゃうわけです。

したがって、いま3つ言いましたけれども、アンケートを取るとか、予算に対して余っていると、27年度はどうだったのか、それだけお聞きしたいと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。時間がきていますが、時間を延長しますか。

○3番（長嶋精一君） 延長します。お願いします。

○議長（稲葉昭宏君） 5分間延長を許可します。

○健康福祉課長（馬場順三君） ただいま長嶋議員の方からご質問いただきました福祉タクシー券それから寿乗車券の利用の実績の関係でございます。平成27年度の決算の状況をみますと、予算額65万円に対しまして支払額が38万3000円となっております、執行率は59パーセントとなっております。一方バスの関係でございますけれども、寿乗車券、予算91万円に対しまして、実績が88万6000円、執行率が97パーセントとなっております。

このタクシー券につきましては、交付者数に対する利用者数を比較しますと、26年度では交付者数350人に対しまして利用者数が121人、利用率が34.6パーセント、それから27年度につきましては、交付者数384人につきまして利用者数が108人ということで、利用率が28.1パーセントという形になっていまして、利用率的には、数字的には伸びていない状況でございます。これはとりあえず券はもらっておこうという方で、実際に使われなかった方が多かったというような印象をもっていますけれども、そういうような実績になっています。

それから、議員の方からご指摘がございました町内を巡回するタクシー的なものうんぬんというようにお話がございましたけれども、町長からの答弁の中でもございましたけれども、国の方の規制緩和に伴いまして、町内の事業所でもタクシー事業に参入したいというような考えをもっているところがございます。こちらの方の事業者の方ではワゴン車を使ったジャンボタクシーの運行について前向きに考えていまして、町の方でもこういったものに支援、従来からの制度を使った支援をするなりして、そういったものを活用する中で、交通弱者に対する支援を行っていきたいという考えがございますので、そういった事業所との連携を密にしながら今後取り組んでいきたいと考えています。以上でございます。

○町長（齋藤文彦君） 私は、健康寿命を維持している方を見ますと本当に友だちの多い方、スポーツをしている方、また趣味を持っている方ということで、たくさんの友だちといっぱい話し合っ

いる人が健康寿命を維持しているように思います。

それで、私も3日間位自分一人だとちょっとおかしくなるようなことがあるわけですがけれども、こういう買物弱者と合せて、本当は、いま課長が言いましたけれども、規制緩和に伴いタクシー業務への参入を考えている人がいますけれども、これをうまく利用しまして、本当に一人でポツンと孤独な老人の方がたまにはドレスアップして松崎に買物に行こうじゃないかと、またうまいものを食べに行こうじゃないかというような形になれば、私は本当にいいのではないかなと思っています。

課長の方に考えろと言っていますので、新しい形ができてくると思います。また、熱海の齊藤市長と話をしている時に、熱海では28年の5月12日から登録料として月500円を払うと週1回ですけれども、3地区から買物バスが利用できるということですので、まだ33名しか登録がないので、非常に苦慮しているよというようなことがありましたので、松崎町もいろいろやっているところをいろいろ検討しながら、松崎のそういう買物弱者とか、老人の方が交通不便のところから松崎町へ出てきて、本当に買物ができるような形になればいいかなと思っています。

○3番（長嶋精一君） 具体的には民間企業の人たちを取り入れて、民間の企業を取り入れて案を作った方が私はいいと思います。

それから、あと2つ、時間が限られていますけれども、順天堂行の直通バスは、これは要するに、そういうふうな会ができていて、それで進行しているわけですね。

それともう一つは、東海バスが沼津方面のバス、急行バス、これは7時10分発ですね。このバスに間に合うように各地区から発進できるようなマイクロバスみたいなものをぜひ出してもらいたいと思います。

今は、三浦地区だけがおそらく7時10分のバスに間に合うという形になると思います。急行バスですね。そうすると不公平ですから、全地区で間に合うようなバスをぜひ開始してもらいたいですけれども、町長、いかがですか。

○町長（齋藤文彦君） 先ほど壇上で言いましたけれども、平成27年度において静岡県、沼津市、下田市、伊豆市、南伊豆町、松崎町、西伊豆町が協働で南伊豆西伊豆地域公共交通網形成計画というのを策定しました。この中で一番課題になったのは、順天堂病院行の不便さが指摘されるわけですが、それをうまく便利にしようということで、今度6月13日、月曜日に静岡県地域交通課、松崎町、西伊豆町、伊豆市、沼津市のバス担当者及び福祉担当者、東海バス、伊豆箱根バスの担当者による問題解決に向けた会議が開催予定ということですので、本当にこれがいい方向に向かっていけばいいかなと思っています。

解決策としては、本当に直行バスを走らせることが理想ですけれども、既存の路線バスとの兼ね合いとか順天堂近くでやっています伊豆箱根バスとの関係があって、いろいろ難しい問題を抱えていますので、ぜひこれがうまくいけばいいなと思っています。

また、合せてお願いがあるわけですが、長嶋議員は本当にこの順天堂病院のことを言われるわけですが、長嶋議員は下田メディカルセンターの一部事務組合の議員でございます。ぜひ下田メディカルの方にも町民の皆さんが行くようにぜひ宣伝していただきたいなと思います。

○議長（稲葉昭宏君） 申し上げます。時間ですからまとめてください。

○3番（長嶋精一君） 下田メディカルの件はがんばります。

町長、その7時10分発の東海バス、松崎発、それに間に合うような各地域から小さなバスでいいですから、それが発進できるようにぜひ合せてやっていただきたいと思います。

伊豆箱根とか・・・、今の件と違って伊豆箱根だとか、東海バスとか、そういった仕分けはあると思うんですが、それについては私も考えていることがあります。ここでちょっと言えませんが、それについてまた町長なり課長に提案しますから・・・。

以上で私の質問は終わります。

○議長（稲葉昭宏君） 以上で長嶋精一君の一般質問を終わります。

午後1時まで休憩いたします。

(午前11時44分)

---